

拾ヶ堰の世界かんがい施設遺産登録

拾ヶ堰は、平成28年11月8日にタイ王国チェンマイで開催された第67回国際かんがい排水委員会国際執行理事会 (IEC) において、世界かんがい施設遺産に登録されました。

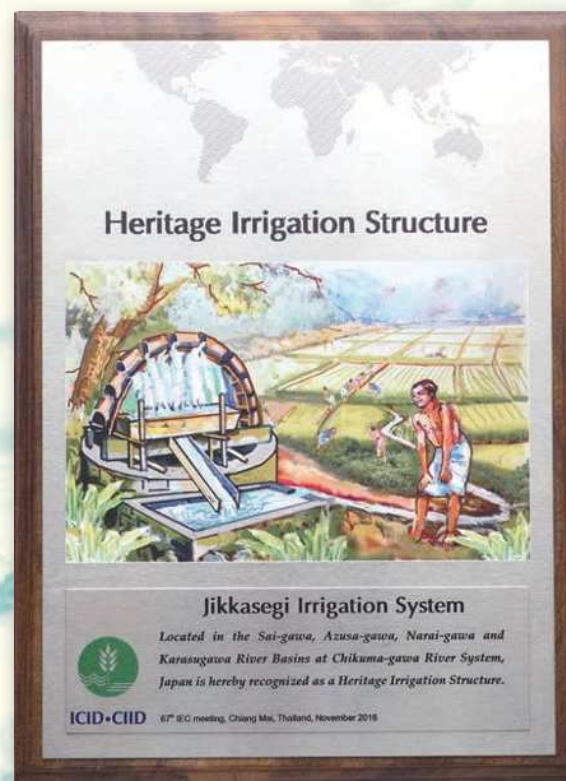
登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています。

☆世界かんがい施設遺産登録数 (2016年末時点) : 47施設 (うち日本国内登録数 : 27施設)

【登録証】



【世界かんがい施設遺産登録記念盾】



国際かんがい排水委員会

長野県安曇野市千曲川水系に位置する拾ヶ堰は、地域住民がサイフォンの建設と先進的な設計施工技術による事業計画や、水利組織による維持管理を行ない、200年以上地域の経済発展に貢献しているため、ICID世界かんがい施設遺産に登録する。

2015年10月フランス共和国モンペリエ市第66回国際執行理事会にて授与

かんがい施設遺産 拾ヶ堰

拾ヶ堰は、世界かんがい施設遺産として登録されました。

国際かんがい排水委員会 2016年11月
タイ王国チェンマイ第67回国際執行理事会

※拾ヶ堰は登録が2016年IEC (タイ・チェンマイ) ですが、2015年のIEC (フランス・モンペリエ) で審議されたため、登録証の表記は2015年フランス・モンペリエの記載となります。

国際かんがい排水委員会(ICID)

国際かんがい排水委員会(ICID)は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するために、世界かんがい施設遺産制度を創設しました。

表紙等写真提供 / (故) 曾山 多佳

発行 / 拾ヶ堰世界かんがい施設遺産登録記念式典実行委員会

事務局 安曇野市農林部耕地林務課 (TEL 0263-71-2431)
施設管理 長野県拾ヶ堰土地改良区 (TEL 0263-72-2949)

Heritage Irrigation Structure Jikkasegi Irrigation System

世界かんがい施設遺産

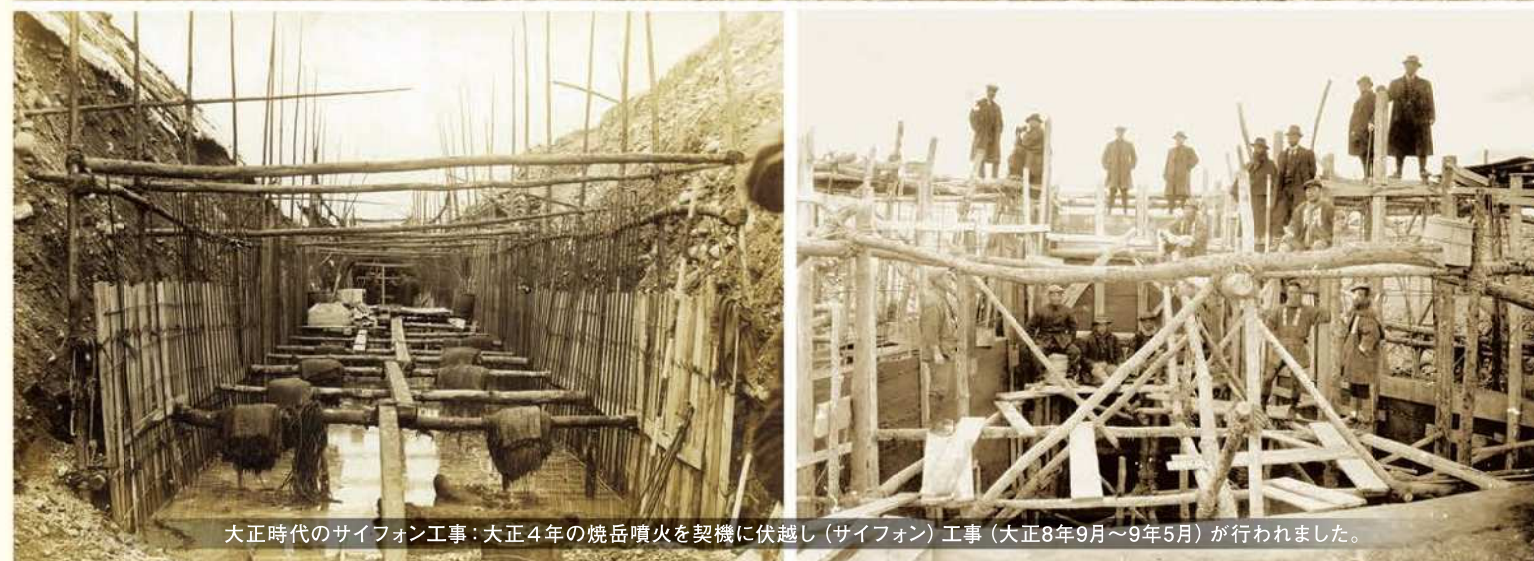
拾ヶ堰

JIKKASEGI

2016年11月8日登録



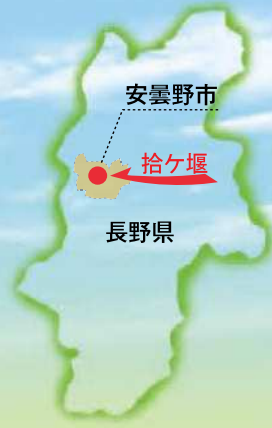
大正時代の頭首工水門：改修工事完成の写真と推察されます。



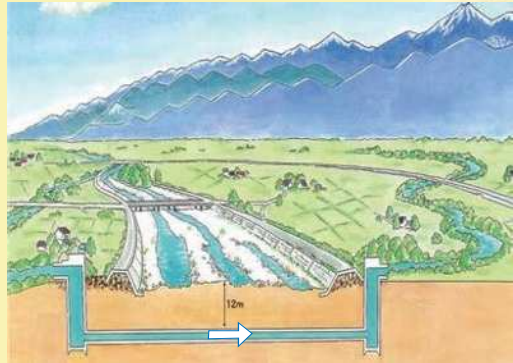
大正時代のサイフォン工事：大正4年の焼岳噴火を契機に伏越し(サイフォン)工事(大正8年9月～9年5月)が行われました。

じっかせぎ 拾ヶ堰世界かんがい施設遺産ガイド

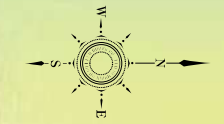
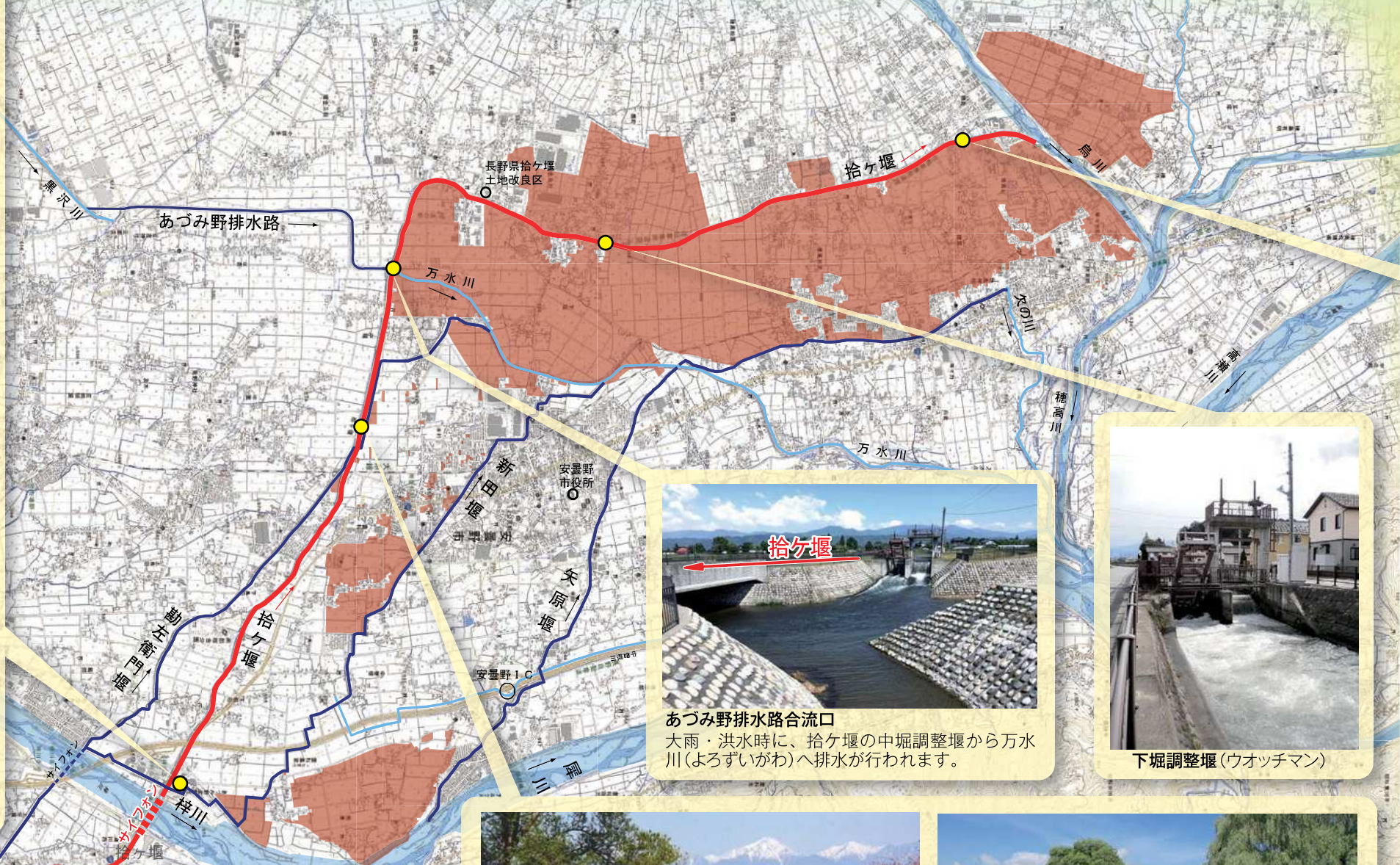
拾ヶ堰は江戸時代後期、水利確保に困窮していた当時10カ村の指導者を中心として立案され、文化13年(1816年)に開削されました。その重要性は高く、工事には延べ6万人以上の農民が参加し、約3か月の短期間で終えるという驚異的な事業でした。水路の延長は約15キロメートル、水利を標高は低いものの平一帯を潤す豊富な水量のある奈良井川に求めたため、当時の技術の粋を集め、ほぼ標高570メートルの等高線に沿って非常に緩い勾配で安曇野中央部を貫かれています。現在もなお、約780ヘクタールに及ぶ水田が灌漑(かんがい)され、農業生産に必要な不可欠な農業用水の供給はもとより、地域住民への生活用水の供給、自然環境・生態系の保全、そして、安曇野地区広域排水事業により排水機能も兼ね備え、地域防災においても重要な役割を担っており、この地域に無くてはならない大切な水路となっています。拾ヶ堰は、こうした先人達の高い技術力を用いた開削工事や、梓川の地下を横断するサイフォン工事(伏越し工事)、そして、開削以来適切な維持管理が行われ、200年以上地域の発展に貢献してきたこと等が評価され、世界かんがい施設遺産に登録されました。



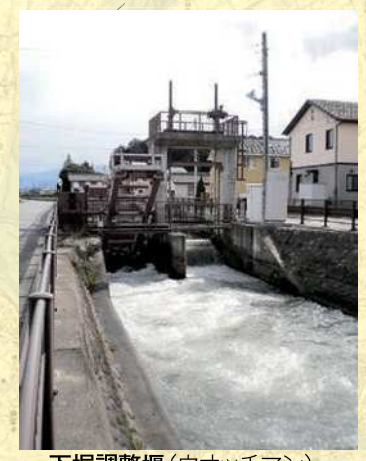
大正9年に、先人達の高い技術力により、馬蹄形現場打ちコンクリート管(口径φ3.3m)による梓川伏越し工事で旧サイフォンが完成しました。



平成10年に、旧サイフォンの直下、河床から12mの深さに長さ353mの現在のサイフォンが完成し、工事に使用したシールドマシンのカッターヘッドが保存されています。



本郷調整堰(ウオッチマン)



下堀調整堰(ウオッチマン)



豊科南小学校全校生徒による拾ヶ堰クリーン大作戦が毎年実施されています。



あづみ野排水路合流口
大雨・洪水時に、拾ヶ堰の中堀調整堰から万水川(よるずいがわ)へ排水が行われます。



頭首工管理棟



拾ヶ堰頭首工



「じてんしゃひろば」は、地域の憩いの場として、多くの方が散歩やサイクリングを楽しんでいます。



「安曇野ハーフマラソン」は、目前に広がる残雪の北アルプスを眺めながら、拾ヶ堰の清らかな流れやわさび田の横を走る風光明媚なコースで、「安曇野」を満喫できるコース設定となっています。



小学4年生の地域総合学習にて拾ヶ堰学習が行われています。

注) この地図は国土院発行の2万5千分1地形図(有明・明科・信濃小倉・豊科)を使用したものである。